

「白米千米田から発信しよう」(第5学年)

天理市立櫛本小学校 小西 慶子

1. ESD を生かした授業づくり

(1) 単元名・学校種と学年

「白米千米田から発信しよう」 小学校 第5学年

(2) 単元の概要

本単元は、2011年「世界農業遺産(GIAHS)」*1に認定された「能登里山里海」の一つである「白米千米田」の景観を守り伝えていくための方法や、関わった人々の思いや願いを学ぶことで、棚田の未来について自分たちができることを考え、実践する力をつけることをねらいとしている。

白米千米田は平均面積が18㎡と小さな田んぼが1004枚もある棚田である。面積が小さいので、機械による効率化が測れず、ほとんどが昔ながらの人による過酷な作業を行っており、後継者不足と高齢化で地元農家だけでは耕作を続けることが難しくなっている。そこで、「日本海に面した棚田」という絶景を損なうことを心配した人々が協力して「オーナー制度」を作り現在に至っている。

児童は、社会科の「米作り」の学習で、米作りの大変さや人々の苦勞、願いを学習している。その上で、人々が棚田を守ろうとする思いや願い、また、次世代の人に伝えていこうとしていること、失われつつある家族のぬくもりを理解させたい。また、日本に数多くある棚田を考えたとき、「私には何ができるか」、「地域の人との関わりはどうか」について考えさせたい。そして、地域の未来像を描きながら、自ら行動できる児童を育成していきたい。

*1 世界農業遺産(GIAHS)・・・国連食糧農業機関(FAO)が農林水産の営みによって生まれ次世代の残すべき、景観、文化、生物多様性がある重要な地域であると認定した地域。「能登の里山里海」が日本で初めての認定となった。

(3) ESD の視点の明確化

本単元で ESD の視点に立った学習指導を進めるにあたって、棚田は長い年月の中で守り続けられてきたものであり、自然の摂理により土地そのものが変化する可能性のあること(有限性)を理解させたい。また、一時は減ってしまった水田を復活させようと立ちあがった人々がいて、全国からオーナーと呼ばれる人・家族が集まり今の棚田(棚田の景観)が損なわれずにあること(連携性)を理解させたい。そこには、自ら米を作る喜びだけでなく、一緒に汗を流した人々との関わりや、地域住民との心のふれあいがあるということにも気づいてほしい。

そして、「私たちの棚田会議」を目標に、全国の棚田について調べ、自分たちがこれから行うべきこと、地域に働きかけることを探究し、地域の未来像を描きながら、自ら進んで行動することの大切さ(責任性)を自覚させたい。

【持続可能な社会づくりの構成概念】

構成概念Ⅲ 有限性…自然は時として変化すること【有限】

構成概念Ⅴ 連携性…棚田の景観を守るためには、「自分・地域の人々」、「自然」、「地域」が
つながりあうこと【連携】

構成概念VI 責任性…絶景の「棚田」を未来に残すためには、一人一人が自分にできることを考え進んで行動すること【責任】

(4) 留意事項

①教材のつながり

本単元は、米作りという視点から、社会の「米作り」や「水資源」との関連が挙げられ、米の収穫量を考える時には、算数の「平均・単位量あたりの大きさ」の求め方が必要となる。農作業をする際、小さな水田と水田の間を歩く距離については、体育の持久走で検証することができる。また、コミュニケーションを行う力の育成としては、国語の「討論」や「パネルディスカッション」を取り入れ、課題の解決を図る。

②人のつながり

白米千米田の「オーナー制度」についての取り組みを学ぶ中で、人々のつながりを理解する。また「私たちの棚田会議」を行い、友だちの意見を聴き、自分の意見とすり合わせる過程を大事にしながら、課題を追究する。

③能力・態度のつながり

「私たちの棚田会議」作りとして、これまで学習してきたことを基に棚田の未来像について話し合う。そのために自分たちができること、地域に働きかけることは何かを考える。

2. ESD の視点を生かした授業の実践

(1) 単元の目標（重視する能力・態度）

《関連》

棚田について、人同士のつながり、自分と地域・自然とのつながりに関心を持ち、それらを尊重し、大切にしようとする。

【関心・意欲・態度】

《未来》

棚田を様々な視点から捉えることで、人の力の可能性や自然の有限性に気づき、未来に向けて自分ができることを表現しようとしている。

【思考・判断・表現】

《参加》

棚田に関する情報を集め、自分の役割を理解し、できることを進んで実践しようとする。

【技能】

《多面》

自分・地域・社会・自然などのつながりや広がりやを様々な視点から捉え、人々が協力して景観を守るために努めていることを理解している。

【知識・理解】

(2) 評価規準

関連	未来	参加	多面
①棚田について、関心を持ち、意義や人々のつながりを尊重しようとしている。	①棚田を多面的、総合的に考えようとしている。 ②景勝地の保存について、自分たちにできることを考えることができる。	①棚田の特徴や人々の努力、自然の有限性について調べ、自分たちにできることを実践しようとしている。	①人々の知恵や努力を理解している。

(3) 単元の計画 (総時数 13 時間)

時	主な学習活動と内容	◇教師の支援 ◆主な評価
1	<p>【白米千米田について知ろう】</p> <p>○石川県輪島市に位置する「白米千米田」は、江戸時代に作られた千米田（棚田）であることを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>「千米田」というけれど、実際には、1,004 枚あるんだ。 平均面積が 1 8 m²だよ。</p> </div> <p>○国の棚田百選にも選ばれている景勝地であることを知る。</p>	<p>◇棚田とは？そもそもなぜ棚田が必要だったのかを考えさせる。(生きるために山を切り拓くということ)</p> <p>◇白米千米田の写真を見せ、小さな田んぼが斜面に幾重にも重なっていることを理解させる。</p> <p>◆棚田について関心を持ち、多様な観点から調べようとしている。 《関連》</p> 
2 3	<p>【棚田の意義について考えよう】</p> <p>○食料生産について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会科で米作りについて学習したが、学習したような大型機械は使えない。 →手作業？ ・機械が使えないと、農作業の効率が上がらない。→経済的にどうなのか？ 若い人が減るのでは？ ・どのくらいの収穫量があるのか、単位量あたりの大きさを使って求める。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>【連携】</p>  </div>	<p>◇機械による効率化が図れず、ほとんどが昔ながらの人力による過酷な作業であることを理解させる。</p> <p>◆人々が協力して、棚田米作りに取り組んでいることを理解している。 《多面》</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>千米田は、日当たりと風通しが大変良いので、害虫が発生しにくく減農薬のためおいしいよ。 ハザ干しもしているよ。</p> </div>

<p>4</p>	<p>○水源・保水機能について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急な斜面にある水田の水は水資源の確保はどのようにになっているのかな。 <p>・白米千米田は「地滑り地帯」だが、耕作しても地滑りはしないの？</p>	<p>◇山地に降った雨が、ゆっくりと地下に浸透していることを理解させる。また、棚田自体が用水路の働きをしていることを理解させる。</p>  <p>◇田起こしや代かきを繰り返すことにより、耕盤という土層ができ、地下への浸透水を減らすことを理解させる。</p>
<p>5 6</p>	<p>○生物多様性について考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・棚田には、どんな生物がいるのだろうか、調べ、気づいたことを話し合う。【有限】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>平地にある水田では、見られない生物がたくさんいるよ。</p> </div>	<p>◇多種多様な生物が生息していることを理解させる。</p>
<p>7 8</p>	<p>【白米千米田の保存について考えよう】</p> <p>○地元農家の状況を知る。(減少している)</p> <p>○「オーナー制度」について調べ、発表しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ、オーナー制度ができたのか？ →農家が減り、高齢化が進んだため。 ・オーナー制度とは、何をするのか？ ・オーナー制度の利点は？ (オーナーの気持ちを考える)  <p>【連携】</p> <p>○白米千米田愛耕会の方からの手紙を読む。</p>	<p>◇地元では、高齢化が進み、田んぼに関わる人々が減少し、休耕田が増えていた状況を打破し保存していくためにはどうすればよいかを考えさせる。</p> <p>◇休耕田となると、水田の復活には時間と労力がかかる。休耕田にしないため、全国からたくさんの人を呼び、棚田を作り続けていることを理解させる。</p> <p>◇オーナーになってまでして、米作りをする必要があるのかを考えさせる。</p> <p>◆オーナーになることで、土地の人々とのふれあう時間を持つことができ、お互いが有意義な時間を過ごすことができることを理解している。 《多面》</p>

9	<p>○棚田の保存について、「一人一人ができること」をテーマに話し合う。</p> <p style="text-align: right;">【責任】</p>	<p>◆棚田を様々な視点から捉える事で、人々の努力や可能性、自然の有限性に気づき、未来に向けてできることを考え表現している。</p> <p style="text-align: right;">《未来》</p>
10	<p>【棚田会議を開こう】</p> <p>○世界遺産「フィリピン・コルディリエーラの棚田群」について知る。(DVD)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状・イフガオ族の人々が互いに支え合ってきたから今があること、そして、新たなつながりの大切さについて考える。【連携】 	<p>◇イフガオ族の人々の努力や絆について理解させる。</p> <p>◇棚田の景観を維持しながら、人々の生活や文化、伝統を守り続ける方法を考えさせる。</p>
11 12	<p>○世界にある棚田からグループ毎に場所を決め、情報を集める。集めた情報をまとめ、発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・棚田の特徴・人々の関わり・保存について 	<p>◇棚田の特徴や、人々の努力、自然の有限性について調べさせる。</p> <p style="text-align: right;">《参加》</p>
13	<p>○棚田の景観と人々の生活、文化、伝統を守るためにはどうすればよいかを考える。</p>	<p>◇景勝地として残していくために、自分たちができることを考えさせる。</p> <p style="text-align: right;">《未来》</p>

*参考 DVD

(社) 日本ユネスコ協会連盟

「守ろう地球のたからもの ～豊かな世界遺産編～」

④ 連携、人のつながりの大切さを知る